

## 7. 河川空間の現状

### 7.1 河川敷等の利用の現状

利根川水系における高水敷の占有状況は図 7-1 に示した通りであり、公園と運動場が全体の半分以上を占めている。またその利用状況は、首都圏近郊の良好な自然環境、広大なオープンスペースを背景に、散策、釣り、スポーツ、自然観察等、多種多様に多くの人々に利用されており、水系別の利用者数では、全国一位となっている。

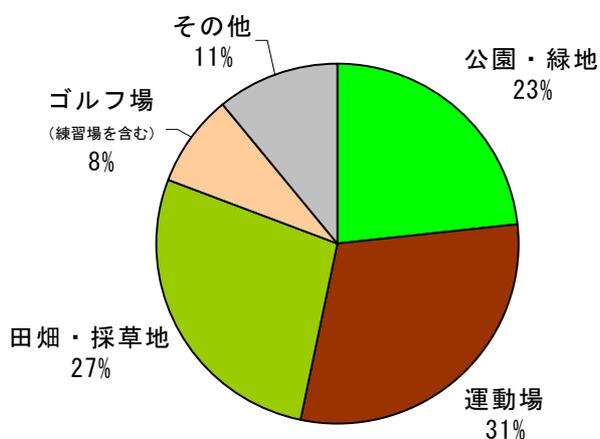


図 7-1 利根川河川敷占有状況

表 7-1 利根川の河川敷利用状況  
(平成 15 年度 河川水辺の国勢調査)

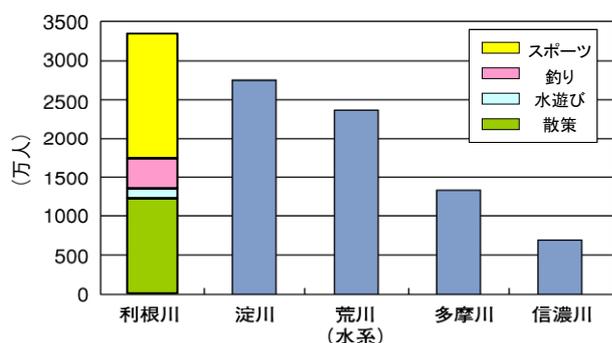


図 7-2 水系別河川利用状況  
(平成 15 年度、河川水辺の国勢調査)

		利用者数(千人)	全国順位
利用形態 内訳	スポーツ	16,504	1
	釣り	3,970	1
	水遊び	1,109	2
	散策等	11,469	1
計		33,052	1

(単位:千人/年)

## (1) 利根川

### 1) 上流域

藤原ダム直下の水上温泉から下流は、利根川の激流が生み出した水上峡、諏訪峡等の渓谷があり、豊かな水量をたたえた淀みなど、変化に富んだ景観が見られ四季を通じて多くの観光客が訪れている。また、激流を下るラフティング、カヌー等の利用が行われている。



写真 7-1 ラフティング (みなかみ町:水上峡)

写真 7-2 諏訪峡の紅葉 (みなかみ町)

### 2) 中流域

扇状地が広がる渋川下流から取手までは、勾配が緩くなるとともに川幅が広くなり、前橋付近では夏にはアユ釣り客の姿が見られ、利根大堰上流の島村・赤岩の渡しでは、現在も道のない主要道として渡し船が地域の交通手段として利用されている。また、河川敷の広大な敷地ではグライダー滑空場、グラウンドなどが整備され、スポーツ、イベント等の利用が行われている。



写真 7-3 グライダー滑走場 (熊谷市)



写真 7-4 アユ釣り (前橋市)

### 3) 下流域

取手から河口までは、勾配が緩やかで佐原市付近では、田園風景となり水郷地帯が広がる。公園やグラウンドなどが整備され散策やスポーツ等の利用が行われるとともに、佐原、潮来等を中心とする水郷地帯では、現在でも江戸への物流を支えた利根川の舟運を活用した観光やお祭り等が行われている。



利根川舟運の中継港、周辺農産物の集散地として栄えた佐原（小野川）の観光船

写真 7-5 サッパ船（佐原市）



利根川を挟んだ茨城県鹿島神宮と千葉県香取神社の神が12年に一度、利根川の水上で再開する祭り。河川の水上市船祭では、国内最大規模

写真 7-6 鹿島神宮「御船祭」

・香取神宮「式年神幸祭」

### (2) 渡良瀬川

上流域には、渡良瀬川の流れが生み出した深い渡良瀬渓谷があり、紅葉の季節には多くの観光客が訪れる。中流域の河川敷は、運動公園や市民広場などが整備され、散策やスポーツ等の利用が行われている。

また、渡良瀬遊水地は、東京から60km圏内であり3,300haにも及ぶ広大なオープンスペースを有し、本州最大規模（約1,500ha）のヨシ原に代表される豊かな湿地環境が広がり、スポーツにレジャー、自然とのふれあいや憩いを求めて多くの人々が訪れている。



写真 7-7 バードウォッチング  
（渡良瀬遊水地）



写真 7-8 ウォークキング大会  
（渡良瀬遊水地）

### (3) 鬼怒川

上流域には、龍王峡、鬼怒川温泉郷などの渓谷があり、多くの観光客が訪れるとともに、鬼怒川の急流を利用したライン下りなどが行われている。

中流域では、高水敷に広場やグラウンド等、水辺には鬼怒ふれあいビーチが整備され、スポーツ、レジャー等の利用が行われている。また、夏には、多くのアユ釣り客の姿が見られる。



写真 7-9 鬼怒川ライン下り (藤原町)



写真 7-10 鬼怒ふれあいビーチ (宇都宮市)

### (4) 小貝川

高水敷は、大部分が民有地であり、川幅が狭いことから他の河川に比べ利用は少ないものの、サイクリング・散策等の利用の他、小貝川緑地 (オオムラサキの森)、フラワーベルト、福岡堰などの拠点的に整備された場所での利用が多く、憩いの場を求めて多くの人が訪れる。



写真 7-11 谷和原村福岡堰 (谷和原村)



写真 7-12 藤代フラワーカナル (取手市)

## (5) 霞ヶ浦

琵琶湖に次ぐ広い湖面積を有し、江戸時代から江戸への舟運や漁業が盛んで、今日でも帆曳船が観光船として運航されているほか、ヨット、ウインドサーフィン等の水面利用が盛んに行われている。また、水辺では釣りや散策などの利用者が多い。



写真 7-13 帆曳船の運航（霞ヶ浦）



写真 7-14 ウィンドサーフィン（霞ヶ浦）

## (6) 江戸川

河川敷は、都市部の広大なオープンスペースとして、緑地公園・グラウンドが整備され、散策・スポーツ等のレクリエーションの場として利用されるとともに、数少ない自然の残るスポットとして多くの人に利用されている。



江戸川区の公園、グラウンドの約4割は江戸川河川敷  
写真 7-15 江戸川区東小岩地区



首都圏で数少ない潮干狩りやハゼ釣り等を楽しめるスポット  
写真 7-16 市川市行徳地区（江戸川放水路）